

情報教育部会

平成26年度の活動

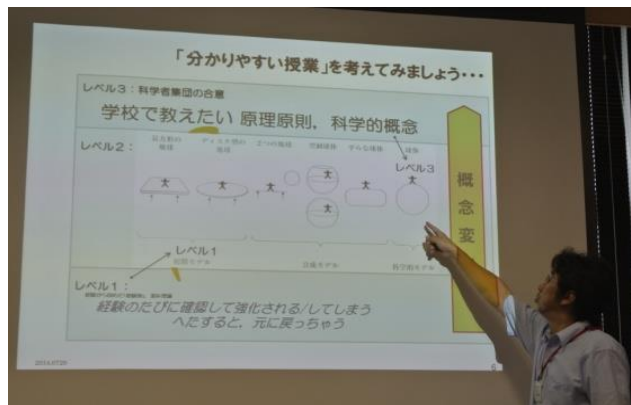
【第1回一斉研】 5月6日 会場:上灘小学校

内容:役員決定 本年度の研修の計画 各学校の情報モラルなどの情報交換

【夏季一斉研】 8月6日 会場:上北条小学校

1 講義「タブレットの活用について」 講師:県教育センター 千代西尾指導主事

タブレットで簡単にできることや ICT 機器を活用した授業のよさを「Learning Pyramid」と関連させながら話していただきました。実際に活用した実践例も紹介してもらい、ICT の効果的な活用方法を深める研修を行いました。その中で、話し合い活動を充実させるために、「記録→すぐ確かめる→協議→班で検討→クラス全体で共有→実践してみる→記録」といった流れがありました。



2 情報提供とワークショップ 講師:湯梨浜町立東郷小学校 田中靖浩教諭

タブレット端末の種類や活用目的、アプリの活用など、実践を織り交ぜながら紹介していただきました。活用目的の一つとして、子ども同士がお互いの考えを吟味しつつ意見交換や発表を行う「協働学習」を挙げられていました。

情報提供後は、各自配られた iPad を触ってみて、操作方法に慣れていきました。その後3人グループになり、カメラ機能やアプリ「ロイロノート」を使った活用事例を考えました。



それぞれのグループが作成した事例を紹介し合い、タブレットを活用した研修を深めることができました!



〈すぐに使える・役に立つアプリの紹介〉

○国語

- ・常用漢字筆順辞典
- ・こどもゆびドリル
- ・こどもレター

○理科・社会

- ・星座表
- ・あそんでまなべる 日本地図パズル

○表現・協働学習

- ・ピッケのつくるえほん
- ・ロイロノート
- ・おえかキロク

○特別支援

- ・ナゾルート
- ・モジルート

【自主研究会】 1月17日 会場:学校法人鷄鳴学園 青翔開智中学校・高等学校

(1) 会場校紹介＝私立青翔開智中学・高校学校見学、学校説明、校務と授業におけるタブレット活用
・青翔開智中学校・高等学校校長:横井 司朗 ICT 推進担当:織田澤 博樹

はじめに横井司朗校長から、青翔開智中学校・高等学校の紹介をお聞きました。同校は探求型学習に力を入れており、そのために一人ひとりにタブレットを支給し、情報交換を進んで促し、1階中央にラーニングスペースという名の図書スペースを設けることで、生徒自身が課題を調べられるようにしているというお話がありました。

次に ICT 推進担当の織田澤さんからタブレットを導入したことで生徒がどのように変容していったかという話を聞きました。特に印象に残ったのは、生徒自身が部活動を設立し、活動内容や顧問の先生を決める際にタブレットを使って教師に向けてプレゼンを行うというものでした。生徒たちが休憩時間に集まり、タブレットを操作して情報の収集や共有、編集を行うなど主体的に取り組む姿を紹介してもらいました。

(2) タブレット活用事例発表

- ・岩美町立岩美中学校 岩崎有朋教諭「小中学校理科における21世紀型スキル育成のためのタブレット活用実践事例」
- ・鳥取環境大学 足利裕人教授「大学生ならびに小学生を対象としたタブレット活用実践事例」
- ・鳥取短期大学 野津伸治教授「大学生を対象としたタブレット活用実践事例」

活用事例発表では3名の先生の実践をお聞きました。

岩崎教諭は「小中学校理科における21世紀型スキル育成のためのタブレット活用実践事例」という題で、小学校6年生と中学校での取り組みについて発表していただきました。タブレットを使ったグループ活動のポイントとして、

- 同一作業の繰り返し → 機会均等
- 役割をいくつか設定 → 責任感
- 作業ごとに役割変更 → 多面的
- 一回ごとに全員確認 → 意思疎通

を挙げられ、小6「月と太陽」での実践を元に紹介をされていました。



足利教授には、Android タブレットでの放射線計測の取り組みを紹介していただきました。実際にタブレットと測定器を接続し、会場の放射線量を計測しました。また、福島県の浪江町で放射線計測した際の貴重なお話も聞くことができました。

野津教授からは、大学での取り組みを報告していただきました。アプリの作成やLineのオリジナルスタンプ作りなど学生が興味を持ってタブレットを操作できる実践を挙げられていました。

(3) 講義

- ・鳥取短期大学 野津伸治教授「授業におけるタブレット活用に必要な技術的側面について」

活用事例と同じく、鳥取短期大学の野津教授から話を聞きました。授業でタブレットを活用する際に必要な環境の設定についての話で、三脚を使った「簡易書画カメラ」の作り方から、テレビ画面に出力する際に用いられる機器の紹介など、小学校でタブレットを活用する時にも役立つ内容でした。

(4) ワークショップ

- ・「小学校2年生の学習における放送教育と関連したタブレット活用プランを立てよう」 趣旨説明:田中靖浩事務局長

来年度の夏に開催される放送教育の鳥取県大会で発表する授業作りの元となるものを、参加者で考えました。内容は2年生3学期の国語か生活科の授業で、タブレットを活用したものでした。主にタブレットに搭載されているカメラ機能と動画機能を使った実践例が多く挙げられました。例えば国語では、「考えたわけを書こう」の単元で写真を撮ってきて、その写真を見ながら「場所」「季節」「時間」などを、写真を拡大しながら理由を挙げて話したり、生活科では、「みんなおおきくなったよね」の単元で、家庭に持ち帰り、小さかった頃の自分をインタビューしたりなど、グループごとに紹介しました。また、タブレットを活用する際に、それを使うことが目的になるのではなく、単元のねらいを達成するための補助的な役割であることを考えて使用していかなければならないという意見もありました。